

## 会 議 記 録

会議名称	平成 28 年度第 2 回 杉並区立図書館協議会
日 時	平成 28 年 7 月 16 日 (土) 午後 2 時 00 分～午後 4 時 09 分
場 所	中央図書館 地下 1 階 視聴覚ホール
出席者	委員 渋谷、中島、原田、有永、武者小路、平尾、田中、菅野、秋永 区側 中央図書館長、中央図書館次長、管理係長、企画運営係長、 施設整備担当係長、資料相談係長、事業係長、管理係主査、 柿木図書館長、高円寺図書館長、西荻図書館長、永福図書館長、 宮前図書館長、成田図書館長、阿佐谷図書館長、高井戸図書館長、 方南図書館長、南荻窪図書館長、下井草図書館長、今川図書館長、 TRC職員
配付資料	資料 1 中央図書館改修を考える区民ワークショップ (第一回) の実施状 況 資料 2 第 48 回杉並区区民意向調査の実施について 資料 3 平成 27 年度事業報告及び平成 28 年度事業計画について 参考資料 夏休み子ども向け催し情報カレンダー 2016
会議次第	1 開会 2 中央図書館長あいさつ 3 議題 【報告事項】 (1) 中央図書館改修ワークショップ実施状況について (2) 区民意向調査について (3) 平成 27 年度事業報告及び平成 28 年度事業計画について (4) 図書館サービス評価の取組について (5) その他 4 閉会

○会長 それでは、定刻となりましたので、第2回の図書館協議会を開催いたします。

それでは、中央図書館館長さんからのご挨拶をお願いいたします。

○中央図書館長 皆さん、こんにちは。中央図書館長でございます。きょうは、週末の大変お忙しいところ、また暑い中、第2回の図書館協議会にご出席をいただき、どうもありがとうございます。

さて、間もなく学校も夏休みの時期を迎えますけれども、区立図書館では、例年7月から8月にかけて、子ども向けにさまざまな催しを行っております。きょうお手元に、カラー刷りの「夏休み子ども向け催し情報カレンダー2016」という参考資料をお配りさせていただいておりますけれども、区立図書館におきましては、ことしも子ども向けの催しとして、各種行事のほか、読書のチャレンジあるいは調べ学習支援など、多彩な取り組みを予定しております。区立図書館ではこうした取り組みを通じて、子どもと本の出会いの機会を提供しながら、子どもたちの読書に対する関心を高めていければと考えているところでございます。ぜひ、委員の皆様もご都合がつけば、お近くの区立図書館のほうへお立ち寄りいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、きょうの議題としましては、お手元の次第にもございますけれども、まず中央図書館改修に関連した報告がございます。現在、多様な区民などからのご意見をいただく取り組みを進めておりますが、そのうち区民ワークショップと区民意向調査、これに関連して報告をさせていただきます。

次に、例年の案件ですけれども、各図書館の前年度の事業実績と今年度の事業計画を説明させていただいた後、前回の協議会で、事務局の方で最終的に預からせていただいた28年度の図書館サービス評価の取り組みに関する方針につきまして、その後、正副会長さんとの調整を経て、修正差替資料をまとめさせていただきましたので、これについてもご説明させていただきたいと存じます。

きょうは後ろに、各地域図書館長が控えておりますけれども、この後、それぞれの館の事業報告、事業計画についてプレゼンさせていただきますので、お聞き取りいただければと思います。

本日の会議は以上の議題を中心に進めさせていただきますので、委員各位におかれましては自由闊達なご意見をお出しいただければと思っております。

なお、きょうは、既にご案内しておりますが、協議会終了後、引き続き図書館サービス評価部会を開催する予定になっておりますので、長丁場でお疲れのところ大変恐縮でござ

いますけれどもよろしくお願ひ申し上げて、私のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○会長 本日は、4名の委員から欠席の知らせが来ています。

それでは、議題に入ります。本日は報告事項が3件予定されていまして、それからあと、協議会次第の議題の(4)、先ほどの「図書館サービス評価の取組について」については、ちょっと報告事項というよりも協議事項になりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、報告事項で、中央図書館改修を考える区民ワークショップの実施状況について、それから(2)の杉並区民意向調査の実施について、説明をお願ひいたします。

○中央図書館次長 はい。では、私から、この1と2について、まとめてご説明いたします。

まず、資料1をお手元にお開きいただけますか。こちらが「中央図書館改修を考える区民ワークショップ（第一回）の実施状況」でございます。

日時、会場ですが、6月25日の土曜日に午後1時から3時5分、この視聴覚ホールで行いました。出席者が38名、傍聴者が5名ということで、実施内容は記載のとおりでございます。内容としては、ここをまず見ていただくことと、あと、ほかの自治体、この近隣の自治体などの図書館の例を紹介いたしました。次回開催予定も記載されているとおりでございます。

別紙1をお開きいただけますか。次のページでございます。お申し込みいただいた状況ですけれども、年代、左側でございます。各年代、割にバランスがとれて、お申し込みいただけたかと思えます。50名定員のところ49名です。地域については記載のとおりですが、やはりこの周辺の荻窪、あと高井戸、成田、阿佐谷などが多うございます。

次、別紙2に移ります。ここのワークショップ進行の説明概要ですけれども、まず各会のゴールを定めております。「全3回のゴールを「中央図書館の改修アイディアの詰まった「改修計画図」が出来上がっている」として進めていくということで、第1回目は改修のアイデアがぼんやりと浮かんでいる感じ。これで終了しています。第2回目、明日でございますが、「〇〇な図書館へ改修という文言を決める」ということで、第3回は改修計画図をいよいよ完成という流れで進めたいと思っております。

第一回ワークショップのグランドルールとしては、気持ちのいい雰囲気づくりから全てがはじまる。違いを楽しみ、受け入れる。皆さんはまちの専門家です、という形。

3番、改修に関する基本的考え方は、誰もが気軽に利用できる、安全で快適な図書館をめざす。あと、杉並区立図書館サービス基本方針に掲げる「学びの場」、「知の共同体」、

「楽しい交流空間」としての図書館像の実現をめざす。時代の変化に応じた区民ニーズにも、柔軟に対応できる図書館をめざすということで、4番に大規模改修の概要について記載してございます。基本は内部の設備の改修でございますが、そちらとあわせて、内部更新に際し、天井や壁などは一旦壊すため、間取り、レイアウトなどを変更することができ、壁、床材などの交換を通してデザインなどを新しくすることができるということでございます。

裏面に移りまして、具体的に検討していく際のキーワードですね。いろいろ考えられると思うんですけども、ワークショップに参加された皆さんに考えていただくもの、代表的なキーワードが以下のとおり、エリアアクセスの動線、オープンなフロアのゾーニング、新しい部屋の広さや間取り、などです。

先ほど申し上げたとおり、あくまで参考として、ここ10年程度の期間に改築などが行われた他都市の公立図書館の写真資料をスライド映像でご説明しながら、提示いたしました。

次、別紙2の7番、見学順路例ですけども、このような順路で、グループに分かれて、前半、後半に分かれてご案内いたしました。

改修ワークショップについては以上です。

次、資料2の「第48回杉並区区民意向調査の実施について」をお開きいただけますか。これは毎年度杉並区のほうで行っているものです。実施状況としては、調査内容などは以下のとおり、調査方法も5月に行っているということで、無作為抽出の18歳以上の区民1,400名にお願いして、回答いただいたのが1,062名の方ということです。

その中で、2番の図書館に関する設問ですが、別紙1、次のページをお開きいただけますか。こちらが図書館に関する部分でございます。この回答状況の暫定値について、1枚のA4判で別紙2として席上に置いておりますので、そちらをごらんいただけますか。区立図書館の利用について、問55から56までが設問の答えでございます。ごらんいただきますとわかるとおり、55ですが、まだ、この1年間で区立図書館をどのぐらいの頻度で利用していますかということで、一番多い答えが「全く利用したことがない」、2番目が「ほとんど利用したことがない」、などのご意見をいただいています。1から4の合計が、「利用している」とお答えいただいた方、こちらが36.5%でございます。55-1として、「どのような目的で利用しますか」ですが、一番多いのが2番の「図書、雑誌を借りるため」、2番目が「図書、雑誌、新聞等を閲覧するため」、などです。55-1については「〇はいくつでも」と記載してございます。

裏面に移りまして、先ほどは1から4でしたが、55で5、6、「ほとんど利用しない」「全く利用したことがない」と回答していただいた方について、「利用しない理由は何ですか」とお伺いしました。これも「〇はいくつでも」なんですけれども、一番多い理由としては「図書やCDは自分で購入するため」、2番目が「自宅や職場の近くにない（場所を知らない）ため」。以下、いろいろなお答えをいただきました。

56として、「あなたは、改修・改築を行う際に、どのような設備とサービスを充実させることがよいと思いますか」。これは〇は三つまでお願いしています。一番多かったのが「一般図書の充実」なんです。2番目が「ゆったりとして余裕のある閲覧席の設置（増設を含む）」。あと、以下いろいろございますが、お返事いただいております。

私からは以上ご報告でございます。

〇会長 はい。ありがとうございました。

それでは、何かご意見やご質問、おありでしょうか。

どうぞ。

〇委員 私はこの中の傍聴者5人のうちの1人なんですけれども、第1回目なので、図書館がどういうところかというのを、恐らくこのワークショップに参加された方の中に、この中央図書館が初めてだという方も何人かいらしたようで、そういう方が中央図書館をごらんになってどう感じられたのかというのはちょっとわからないところですけど、そういう方がビデオなどを見て、この図書館と比較して、メモをとりながら皆さん図書館の中を回られたようなんですけれども、もう既に次の宿題として「〇〇な図書館」という課題が出ているんですけど、恐らく一つだけの意見で済むはずがなくて、幾つかいろんな図書館の構想が出てくると思うんです。そういうものが、明日二度目に区役所で話し合われて、グループディスカッションになるんですかね。

〇中央図書館次長 そうですね。

〇委員 はい。

で、その次、8月には、今度はもう図面として、この地下1階、2階が大体どういうふうなものになるかというのが、一般の方がこういうふうなレイアウトというのをくり上げていくというふうな流れというふうには私は見ていたんですけど、率直に疑問として思ったのが、この3回で決まったことが、果たしてそれでいいのかということと、3回で決まるのかしらという何か素朴な疑問をまず思いました。

1回目のワークショップを見ていたときに、やっぱりそのワークショップに参加された

方が、初めての方もそうですし、ここのヘビーユーザーの方もそうなんですけれど、黒川紀章の建築事務所の方が2人いらしていたということもあって、かなり質問というものが見学とビデオを見た後に出ていたんですけど、ISPというファシリテーターの方たちが、もうタイムキーパーとしてきちんと役割を果たされて、お時間になりましたからということで、質問はもう、後ほど各自残って、個人でどうぞということだったということで、ちょっと、私は傍聴者なので意見を言えるはずもないんですけど、見ていて、その委員の方がちょっとやっぱり消化不良を起こしていたのではないかなというようなのを、見ていて感じました。

いよいよこの中央図書館の改修をするというのを、一般の区民の人たちのご意見ということを尊重して取り上げるということなんですけど、会の一番最初の質問者の意見が、私たちがここでやるワークショップの区への提言というか、ある意味こういう図書館にしてほしいという、そういう意見をどこまで取り入れてくださるんですかという質問があったんですね。私は、まさにそれが、多分このワークショップが成功するかしないかというのが、何ていうんでしょう、そこが一番のかなめのところかなということも思っていて、本当にどれくらいの、まあ、区民の意見ですから、そこを吸い上げなければいけないと思うんですけど、どれくらいそのワークショップでもって意見が通るのかなというのを、傍聴者としても非常に感じました。

ワークショップで区民の方が質問があって手を挙げられていましたけど、お時間ということで、議論がもうそこで終わって、閉会というふうになったんですけど、話し合っても尽きない議論というものがあると思いますけど、せっかくやっぱり建築家の方がオブザーバー的にいらしていたんですから、できればその30年前のことを知らない我々のためにも、黒川紀章建築事務所から何か一言あってもよかったのかなというのは、ちょっと、傍聴して感じていました。私は本当に、傍聴して、黒川事務所のお二人も、何かこう、居場所というか、座っていらして、何というか、うん、こう、居どころのなさそうな、そうではなかったかもしれませんが、何か、どこでどういうふうなことを言えばいいのか、質問に対してどう答えていけばいいのかというような様子が見られて、もしも3回でもうこれで終わりというふうにはならないようであれば、本来ならもう少し延長してもよいのかもしれないということも、1回目を見ていて感じました。

感想です。

○中央図書館次長 はい。ありがとうございます。

○会長 ほかに、ご意見、質問がおありになりますか。

何か補足されることはありますか。

○中央図書館次長 私からは特段ございません。

○会長 はい。では、次に進んでよろしいですか。

では、報告事項の(3)の平成27年度事業報告及び平成28年度事業計画について、まずまとめて説明していただきます。

○中央図書館次長 はい。では、報告事項の(3)の平成27年度事業報告及び平成28年度事業計画についてまとめて、中央図書館についてはまず私から、その他の各館につきましては各館の館長のほうからご説明いたします。説明に当たりましては、私の横のここの席で立って行いますので、よろしく願いいたします。

では、中央図書館の「館別自己総合評価」という紙が一番表についてございます。こちらに沿ってご説明いたします。お聞きいただいて、よろしいでしょうか。

1番、学びの場としての図書館ということで、対応状況、真ん中の枠のところをごらんいただきたいんですが、1-①について申し上げます。蔵書数の適切な管理のため、区立図書館における蔵書規模の適正化に係る方針を定めて、これに基づいて新たに資料の除籍、廃棄及び保存に関する基準を作成しました。また、情報通信技術の急速な進展の中、更なる図書館サービスの向上を図るため、図書館の電子情報サービスへの対応方針を定めました。さらに、7月から有料データベースの「ブリタニカオンラインジャパン」を追加しました。1-②として、図書館ホームページのパスファインダー（資料の探し方ガイド）ですが、こちらを2件追加しました。また、図書館ホームページ、レファレンス事例「テーマリスト」を毎月追加しました。1-③として、来館することが困難な方へのサービスについて、DAISY資料の点数を増やしました。宅配サービスは残念ながら具体的な検討までに至りませんでした。

2-①は知の共同体としての図書館に相当するところですが、貴重資料のデジタル・アーカイブ化の必要性や対象資料の選定などについて課内で検討しました。2-②として、後援事業・共催事業は年間11回実施し、会場提供・広報だけではなく、図書館資料の展示協力や人的協力も行い、多くの集客につなげることができました。2-③として、計画どおりに行い、図書館での講座・講演会の内容を広げることができました。2-④として、アンネ・フランク関連イベントは多世代を対象とするワークショップ、パネル展を実施しました。

3-①ですが、これは楽しい交流空間としての図書館に対応しております。子ども読書活動推進計画に基づく事業は、全ての年齢層の子どもたちへの事業を展開できました。3-②として、中・高生を対象とした講座を企画し、その周知に学校、関係各課の協力を得ることができました。3-③として、図書館ボランティアに対する研修は分野別に意見交換会、内容を深める研修会を実施しました。3-④として、中央図書館の大規模改修に向けた調査と検討を実施しました。

4ですが、目標実現のための基盤づくりに対応しております。①全館の職員に向けたレファレンス研修を実施しました。専門部署から講師を招いて、認知症サポーター研修を実施しました。4-②として、積極的に研修に参加して、得た知識を共有して、業務につなげました。4-③として、区広報紙への図書館特集記事の掲載、他課主催の地域イベントへの出展などにより、日頃図書館を利用したことがない区民へもアピールをしました。4-④として、学校との連携は毎月、担当者と連絡を密にし、情報交換を行いました。

評価と改善点の中では、特に子ども読書活動推進計画に基づく事業について、中・高生に対する取組が少し不十分であったため、必要な改善を図りながら取り組んでいきたいと思っております。

以上が27年度で、次に28年度についてご説明します。2枚おめくりいただくと、「平成28年度中央図書館事業計画」と書いてある紙がございます。こちらについてご説明しますと、年間基本方針は記載のとおりでございます。1番の「学びの場」としての図書館、①②③ですが、資料の除籍、廃棄及び保存に関する基準に基づいて、除籍目標達成に向けて適正化を計画的に進めて、図書資料の充実を図ってまいります。②として、図書館の電子情報サービスへの対応方針に基づいて、DAISY資料を充実、行政資料のデジタル・アーカイブ化を着実に進めて、図書館サービスの向上を図ってまいります。③として、図書館に来館することが困難な方へのサービスとして、DAISY資料の増、その他のサービスの可能性を検討します。

2番、「知の共同体」としての図書館ですけれども、図書館として、杉並に関する資料・データの収集と蓄積に努めてまいります。地域の人々の協力を求めて、文化・歴史的資料だけではなく、将来も必要とされる資料を積極的に収集し、保存し伝えていきます。②地域、近隣施設のイベントへの協力、行政施策に関連した資料展示を通じ、区民の学びを応援します。③アンネ・フランク関連事業を初めとして、地域の専門家、外部人材の協力を得て、他方面の分野の公演会、講座を開催します。

3、「楽しい交流空間」としての図書館ですが、杉並区子ども読書活動推進計画を改定いたしました。こちらに基づいて成果指標の達成に向けて新たな取り組み項目をはじめとする計画事業を着実に推進します。②おはなし会、季節にあったイベント・行事、特集展示などを開催して、サービスの提供に努めますということと、③中央図書館改修にあたって、来年度設計に向けて、図書館協議会のほか区民参加による意見交換会を開催するなど、幅広い区民の方々の意見を聞きながら基本計画を策定してまいります。

4番「目標実現のための基盤づくり」として、図書館員の育成を図るため、研修、展示会に積極的に参加し、その得た技術・知識について職場内での共有を図り、②として全館の職員を対象とし、研修を行ってまいりたいと思っています。③について、情報を積極的に収集して、資料展示、講演会、イベントにつなげるとともに、中央図書館改修の検討に生かしてまいりたいと思います。

私からは以上でございます。

○企画運営係長 次は、中央図書館の一部委託をしておりますTRCのほうから、報告のほうをお願いします。

○TRC 初めまして。中央図書館様の一部委託を承っておりますTRCです。どうぞよろしくお願いたします。 ページをおめぐりいただきまして、「館別自己総合評価 施設名：中央図書館TRC（一部委託）」と書いております資料、お手元の資料をごらんくださいませ。27年度当初の課題といたしましては、私ども一部委託、主に窓口、お客様対応の部分で事業を承っております。明るく親しみやすく丁寧で笑顔の対応でより身近で安心していただける快適な図書館の環境づくりを掲げてまいりました。また、利用しやすい書架づくり、収集資料をより知ってもらうための情報発信、より親しめる交流の場を、私ども、一部ではございますが、つくるご提案をさせていただきます。快適空間のための巡回強化、子ども読書推進につながる様々な、児童様、連携いたしまして、行事の開催、人材育成のための、私どものスタッフにかかわります研修参加となっております。

対応状況といたしましては、27年度におきましては、私ども責任者・スタッフ、また特別な配架スタッフ、こちらは危機管理スタッフと呼んでおりますが、巡回を主にいたしますスタッフを含めた、弊社全体での情報共有・連携体制を強化いたしまして、中央図書館様にいらっしゃるお客様の様々な要望、ご意見に対しまして、スムーズなご案内、よりわかりやすい丁寧なご説明を行えますよう努めました。具体的な機器などを、無線などを、私どもこちら導入いたしまして、お客様のご意見をキャッチできるような体制を整えてお

ります。

続きまして、今年度の書架整理・棚づくりにおきましては、スタッフによる気づきを重視して、レイアウトや装飾の変更を行っております。情報発信におきましては、ほか、資料がございますとおり、定期広報誌を作成する形で貢献をさせていただいていると自負しております。対象といたしましては、子供様、一般様、28年度にかかりますが、ヤングアダルトの対象をもとにしております。また、交流の場としてさらに活用していただくため、フレッシュな展示を行っております。5番、専門スタッフによる巡回強化により、問題点把握に努めました。より安心、安全な図書館を実現するために、スムーズな一次対応を心がけております。6番、先ほどの児童様のご提案にもかかわりますが、「ぬいぐるみおとまり会」や「あおぞらおはなし会」などの広報の行事を、区内広報様との連携を通し、区民の方へお伝えし、今後、広く図書館の資料と図書館のサービスを告知できますよう試みしております。また、月1回、館内外の専門研修の体制を整えております。

評価と改善として、杉並区立中央図書館様の窓口業務におきましては、今年度また来年度にもかかわります、お客様から多様なニーズ・ご意見をお受けしていくと思っております。杉並区立図書館基本方針、また子ども読書活動推進計画等々にもあるとおり、杉並区立図書館様が進化していく過程を、日々の業務やお客様を通し、私どもスタッフ全体で寄り添いながらお応えしていくこと、こちらをしっかりと認識し、方向性を捉えることが必須と考えておりますので、こちらをもとに進めさせていただきたいと思っております。

課題といたしましては、この活動対象をより高い精度で実施できますよう、人材育成に関して、弊社では観点を置いております。

図書館の評価項目といたしましては、資料の充実等々、調べもの相談の充実等々、資料に関しまして、積極的に具申を申し上げます。

また、私どもで経常的取組で皆様にお伝えしたいのは、快適な読書空間の整備、こちらを心がけております。具体的には、窓口の、杉並区様にいらっしゃるお客様の第一の窓口の案内とさせていただいておりますカウンタースタッフの対応や、館内外のこちらの巡回の継続、また利用マナーの向上のために丁寧な接客を心がけておりますので、どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

長くなりましたが、私どもの報告は以上とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

○企画運営係長 それでは、図書館の行政順で、永福図書館にお願いします。

○永福図書館長 永福図書館です。失礼いたします。ご提示させていただきました評価票に加えましてご説明いたします。

平成27年度、資料の計画的な収集・更新・保存を目指しまして、蔵書管理につきましては選書にかかわる人員を増やし、資料の貸し出し状況の確認ですとか買い替えなどをスムーズに行うことができました。選書に関する研修も全体で行いまして、蔵書管理について全スタッフへの意識づけを行うことができたと感じております。

また、ほかの機関等のつながりを意識した事業が27年度は多くありました。開館50年記念事業としまして、方南図書館と共同し、絵本作家の講演会を行ったほか、夏休みの読書チャレンジも両館共同事業として実施いたしました。また、中央図書館とは第1回サイエンスフェスタと一緒に参加し、科学工作会を実施しております。また、大宮児童館では、児童館で活動している講師の方を招いて講座を実施したりですとか、また永福南児童館へ図書館で活動しているボランティアの紹介なども行っております。大宮中学校とは図書委員の方のお薦めの本をお便りに掲載したりですとか、大宮小学校では児童のお薦めの図書を書いたしおりを図書館にて展示を行いました。また、大きなところとしましては、開館50年記念冊子を発行しまして、近隣の小・中学校の校長先生、学校司書の先生、保育園の先生方、永福周辺にお住まいの関係者の方々に、地域の人々にお薦めする本を紹介していただき、図書の展示も行っております。

27年度は、ほかに、使いやすい書架を意識した誘導・案内サインの充実を目指し、古くなってきたサインや書架見出し板などの文字を大きく表示したりですとか、児童本の見出し板には挿絵を加えたりしながら、順次更新しております。また、永福図書館はエレベーターがございませんで、ベビーカーを押して来館した方が、4階の4層にあります絵本のブックガイドや3階にある育児書などを手に取りづらい環境にありましたため、1階児童室内に「おひさま文庫」と名づけた書架を設置いたしております。平成28年度も27年度同様、地域とのつながりを大切に、図書館事業を進めていきたいと考えております。

また、資料の収集、開架から保存庫への保管替えや除籍、リサイクルなどの蔵書管理を計画的に実施いたします。特に除籍の作業は専門に時間を向けまして、慎重に行っていきたいと思っております。

永福図書館は以上でございます。

○企画運営係長 それでは、続きまして、柿木図書館です。お願いします。

○柿木図書館長 柿木図書館です。よろしく申し上げます。

それでは、柿木図書館の平成27年度事業報告について、行ってまいります。年度当初の課題として、杉並区立図書館サービス基本方針に基づいて行ってまいりました。この対応状況の一つとして、地域とのつながりにつきましては、近隣の学校にブックトークを行うことで、交流を図っているところです。今後、より一層地域に根差した運営を行っていきながら、新たな利用者の開拓に努めていくことを考えています。そして、そのための一つとして、児童コーナーの装飾に積極的に当たり、図書館のキャラクター「かき丸」をはじめ、オリジナルキャラクターによるPRを行ったことは評価できると感じております。

年間を通して定例的な行事は滞りなく実施し、多くの参加者を得ることができました。特に児童を対象とした行事は好評で、その中でも、親子で楽しめる「じぶんだけのしおりをつくろう」は、連日の多数の参加者が見られました。また人形劇にも多くの参加者があり、好評で大変よかったと感じております。

そして、平成27年度は柿木図書館開館50周年の年となりました。これに関連して、「柿木図書館と私」と題して作文を募集し、提出していただいた方にもれなくオリジナルのブックカバーをプレゼントするという企画を行いました。これには大人と子供を合わせて66人の応募があり、好評だったと感じております。今後こうした行事も工夫をしながら行っていきたいと考えております。

続きまして、平成28年度の事業計画についてご説明いたします。年間基本方針としては、地域館として地域のニーズに応えることができるよう、杉並区立図書館サービス基本方針に基づき、それぞれの事業に取り組んでいきます。

1、学びの場としての図書館。利用者の皆様が地域の学びの場として活用しやすい図書館を目指します。そのために、まず図書資料の充実を図り、そして快適な読書環境の整備をし、地域の図書館として役割を果たしてまいります。2、知の共同体としての図書館。地域の皆様が自ら学び、知識や技能を持ち、その能力を活用できるような資料収集に取り組んでまいります。3、楽しい交流空間としての図書館。利用者の皆様が気軽に集え、交流できる場として、児童行事の充実を図ること、また大人向けの事業を通して、日頃図書館を利用しない方々を図書館に呼び込めるような事業展開を行っていくよう努めてまいります。

このように、杉並区立図書館サービス基本方針に基づいた図書館を実現するために、事業を企画し、実施してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○企画運営係長 はい。

続きます、高円寺図書館。

○高円寺図書館長 高円寺図書館です。よろしくお願ひいたします。私からは高円寺図書館の27年度事業報告並びに今年度の事業計画、限られた時間でございますので、主だった取組状況を報告させていただきます。

高円寺図書館では、毎年10月に高円寺児童館との共同事業「こうえんじこどもまつり」を、近接、杉八小学校で開催しております。図書館からは「本の森」と題して本のリサイクルコーナーを開催したり、蔵書本に記載されているおもちゃを実際に作成し展示するなど、来場者に本のおもしろさをアピールしております。

また、昨年度は学校事業と連携した職場体験を積極的に受け入れました。区立高円寺中、高南中の生徒が図書館業務を体験しました。さらに、私立白百合女子大学生の職場体験も受け入れました。これらにより図書館の役割を裏からも知ってもらい、利用促進につながるよう取り組んでおります。今年度も、既に高円寺中、杉森中の生徒が、職場体験、職場訪問に訪れ、さらに9月には高南中の生徒も職場体験に来館します。この中で、昨年度新たな試みといたしまして、職場体験に来た生徒に、実習中に自身が選んだお薦めの本を、POPを作成してもらい、YAコーナーなどで展示しております。来館した若い世代にも大変好評であります。

小学校につきましては、杉十、杉八、杉三と生徒が見学に訪れ、グループに分けて職員が館内を案内し、図書館の魅力を伝えております。高円寺地域には現在当館のみしか開設されていないため、新1年生へのバッグ配付なども、区立では杉三、杉四、杉六、杉八、杉十、和田小と6校と、当館の隣接地にあります私立光塩女子学院に出向き、授業の一環として図書館の利用促進につながるような事業を実施しております。今年度も、光塩女子学院には私も訪問し、校長、事務長との懇談後、1クラスですが、子供たちに対し図書館の紹介などを行いました。こちらが、そのとき子供たちに書いていただきました礼状です。

あと、ボランティアグループとの協働では、茜舎という団体にお願ひいたしまして、1階講座室において6月と11月に人形劇を開催しております。今年度も先月、手づくりの舞台と人形を使って人形劇を開催し、来場した子供たちに大変喜ばれております。

また昨年度初めて、手薄であった大人向けの事業といたしまして、高円寺図書館寄席を、地元イベントの一つである高円寺演芸まつり開催時期に合わせて、ボランティアグループ杉並江戸落語研究会との協働事業として実施いたしました。大変好評でありましたので、

今年度は回数をふやし、11月と2月の年2回、事業を実施、企画しております。11月はプロの方をお願いする予定でございます。

また、ボランティアグループらっこの会と三つのりんごの方々とは、毎月開催しているあかちゃんタイムや毎週開催しているおはなし会などに、職員との協働事業として参加いただいております。さらに今年度は新たなボランティアグループ等を発掘いたしました。父親による読み聞かせグループ育父部と月1回のおはなし会と児童本の館内展示など、新規事業を始めております。図書館を活動成果の発表の場としてお使いいただいたり、職員との合同おはなし会などを通じて、お互いに技術を高め合っていきたいと思っております。

他機関との連携では、昨年度新たな取り組みといたしまして、近接施設セシオン杉並内に事務局があります高円寺地域区民センター協議会と連携して、「本とふれあう～本を通してまちとつながる～」という事業を初めて実施いたしました。また、高円寺地域にある座・高円寺（杉並区立芸術会館）でございますけれども、そちらの指定管理者、NPO法人劇場創造ネットワークの協力を得て、2009年3月の創刊からのシアター・コミュニケーション・マガジンの寄贈を受け、当館独自の地域資料として収集を開始しております。

人材育成研修計画の面でございますけども、今年度は人事異動で8名のスタッフが新たに高円寺図書館に配属されました。館内整理日などに、ベテラン職員が講師となり、OJTを実施し、スキルアップを図っております。また当館は高齢職員も多く、正規職員のうち一部は障害者採用枠という職員でございますので、その対応に配慮、工夫しながら、館運営を行っている状況でございます。

広報・情報発信につきましては、児童向け情報紙は毎月発行しておりますけど、今年度からは新たに一般向けお知らせを適宜発行していく予定でございます。

その他といたしましては、昨年、読書週間に合わせて当館独自の読書アンケートを実施いたしました。12月にアンケート結果をもとに館内展示を行い、さらに本との出会いの一助となるようにアンケート回収集計結果を見やすくまとめ、希望者にも配布いたしました。

あと、視覚障害を持つ方への読書サポートといたしまして、合理的配慮の視点からもリーディングトラッカーというのがございまして、それを、1階、2階の各カウンターで希望者への貸し出しを始めております。

今年度は、特にYA世代にとって図書館が魅力ある場となるように、集中的にYAコーナーエリアの整備を、職員、創意工夫を持って実施していきたいと思っております。

最後になりますが、今年度も28年度事業計画に基づき、地域図書館として誰もが利用し

やすい環境整備を図ってまいります。

私からの説明は以上です。

○企画運営係長 それでは、続きまして、宮前図書館、よろしくお願いします。

○宮前図書館長 宮前図書館です。よろしくお願いします。

では、まず、館別自己総合評価のほうをごらんください。こちら、特に今回目立ったところをご報告させていただきます。まず、年度当初の課題の2番のところになります。地域にある図書館としての役割の再考と周辺施設との連携を図ること。宮前図書館は必ずしも規模が大きい図書館とは言えません。ですが、情報発信の拠点として、生涯学習の一助として図書館は運営されなければならないと考え、そのためには、ただ来館されることを待つのではなく、こちらから行動して積極的に行動すること、そういうことを念頭に置いて、昨年度こちらの事業のほうを進めてまいりました。

対応状況のほうの2番のほうですね。その結果、宮前（久我山）地域のネットワークの構築と強化です。宮前図書館のカバーできる範囲のお住まいの方々、宮前地区、松庵地区、久我山地区と、大体この三つが主な中心となるんですが、この調べ学習用の資料の団体貸し出し、これは主にどの図書館もやっていますが、松庵小学校の学校司書さんと相談した結果、小学校の授業の一環として、小学校3年生向けですね、百科事典の使い方、こちら、図書館員から、こちらから派遣しまして、図書館の資料ポプラディア、こちらを何セットか用意しまして、そちらの松庵小学校の授業の一環として、調べ物の仕方を、こちらで、司書さんと一緒に行うことができました。高井戸二小地域の子育てネットワーク開催の宮前秋祭り等、おはなし会と地域施設が中心になって行う事業へ参加しています。

また、秋の子供読書週間についても、近隣の保育園や幼稚園へ出張おはなし会を行っております。こちら、その結果、近隣の地域子育てネットワーク、松庵地区や宮前地区、久我山地区のお手伝いが成功して、それぞれ今年度も継続的なものへ進んでいくことになっております。また、他館からというか他機関から、保育園や小学校から、このときにおはなし会に来てくれないかという要望も増加傾向にありますので、こちらが今年度の実施に向けて協議中であるところでございます。

こちら、28年度の事業計画のほうなんですけど、年間基本方針としましては、地域に住む方々への情報拠点というのがまず第一前提としてありまして、区民の生活や生涯学習の一助、こちら、積極的な情報発信、満足していただける丁寧かつ安心なサービスを心がけ、特徴のある交流・情報空間を構築していくと、目標と立てております。

さらに、宮前周辺の地域特性を念頭に置いて、地域の施設、こちらも先ほど申し上げました、学校と児童館、保育園や幼稚園等のネットワーク化を構築して、各世代、これは小学校だけではなくてYA世代や、さらにはお住まいになられているご高齢の方々も、地域交流の場を設け活性化を図るとともに、図書館資料をより充実させて、情報拠点施設の柱として図書館運営を行っていきたいと思っております。自分のまちに図書館があつて、図書館をどうやって満足して使っていただけるかということ、まずは念頭に置いております。

こちらも先ほども、27年度の報告でもありました、この4番目の地域間ネットワークの会合に参加し、近隣の方々の支援を得ながら、図書館の必要性を説くことということで、館長とそれぞれの責任者ですね、こちらもそれぞれの施設の会合に積極的に参加することによって、図書館ではこんなことができますよということ、それぞれの施設の代表者に説明することで、次の項目別計画表の、見ていただいて、こちらの下から3番目の「他機関との連携」の中に、②番のところにあります「子どもセンターとの連携による事業の実施」というのがございます。こちら、高井戸にあります高井戸子どもセンターの職員さんとお話しする機会がありまして、どうしても高井戸のほうにあります保健センター、ブックスタートの事業とかでもやっているんですが、小さなお子さんをお持ちの方は検診に訪れる機会があつて、そのときに使ってくれるご相談とかがあるんだけど、なかなか宮前地区のほうにそういうことを発信できる拠点がないということだったので、でしたら、図書館と一緒にやってみませんかということをご相談したところ、じゃあ、こちらもうれしいお話なので、職員も行かせていただいて、例えばあかちゃんおはなし会をやった後にそういう相談時間を設けまして、やっていこうということ、今月の7月の終わりにまず第1回を予定しておりまして、その連携による事業等を実施していきたいと思っております。この他機関との連携等をこれからも継続して行っていくために、こういう方々の常に連絡をとり合つて連携していこうかなと思っております。

さらに、情報発信ということでも、宮前図書館ではツイッターを行っておりますので、リアルタイムで早い情報発信が可能かと思っております。ただ、なかなかこのツイートをフォローしてくれる方々が増加しないので、近隣以外の方々にも教えていくにはどうしたらいいかなと今考慮中でございます。

宮前図書館からは以上になります。

○企画運営係長 はい。

それでは、成田図書館、よろしくお願いします。時間が少々押してきておりまして、コンパクトに、すみません、よろしくお願いいたします。

○成田図書館長 はい。成田図書館です。よろしくお願いいたします。

成田図書館は、重点課題に中高齢者の生活支援というのを27年度行っておりました。イベントもろもろ、健康講座ですとかマネープランですとか、ご好評いただきまして、行ったんですが、大体アンケートをいただくと、そういう課題解決があることを知らないというふうに言われてしまうので、どのように知っていただくか、その広報が課題となっております。

耳で聞いても、かたい言葉なので、目で訴えるのが一番だろうということで、入口に入ってすぐ、コーナーを設けまして、書架を大きく置いて、ジャンルごとに色分けした、その重点課題に特化した本を置き、周辺のグレーとは違う黄緑のカーペットにそこだけ変え、肘かけ椅子を二つとサイドテーブルを置き、本を選んで、そのまますぐ後ろの椅子に腰かけてという、重点課題コーナーを設けて、最初に座るのは一体誰だろうと思っていたら、その日はとうとう誰も座らずに、入り口の真ん前なのに、みんな、見ては素通りをするという状況でした。もちろん今は毎日皆さん座っていただいているんですけど。お子さんも肘かけにどーんと座ったりとかされています。

重点課題の今年の課題は、中高齢者とうたったんですが、ほぼ高齢者向けになってしまったので、中齢者にはどのように訴えるかということで、マネープランも、今年は子育てにかかるお金のマネープランですとか、あとはビジネス世代に向けての、忙しい日でも栄養バランスのいい、健康にいい食事の講座ですとか、あとは速読で本を大づかみに読める読書会、ワークショップ形式の読書会ですとか、そういったイベントを広報展示とともに行っております。

あとは成田は芸術部門が重点収集となっております、壁一面一つの面が、芸術、彫刻、絵画、写真、音楽などなんですが、ちょっと奥まったところでありまして、なかなかそれもアピールにつながっていないので、今年はその棚から持ってきた展示を積極的に行い、入口近くから入っても、あ、成田は芸術が重点なんだと、ほかの周辺地域の方にも、あそこに行けば芸術の本が変わったものが見られるというのを訴えていきたいと思っております。

また、他機関との連携も深めていきたいくて、学校連携は一定の評価をいただいているんですが、例えば今年は、中学校さんが職場体験に来たときに、近隣児童館さんに、初めて

の試みなんです、中学生による出張おはなし会をさせていただいて、非常に貴重な体験をしていただくことができました。また去年、ケア24の活用方法ということで、職員の方に講義を行っていただいたご縁がありますので、今年はこちらからケア24に行って、読書のお薦めなどを、向こうのイベントでさせていただきたいと思っております。

以上でございます。ありがとうございます。

○企画運営係長 では、西荻図書館です。

○西荻図書館長 西荻図書館です。よろしくお願ひします。

27年度事業につきましては、お手元の資料に記載したとおりでございますが、主なものを4点、簡単にお話しさせていただきます。

まず1点目、蔵書についてですが、27年度当初、蔵書数が15万1,000冊余りとなりまして、蔵書の適正規模を超えてしまっているため、利用の少なくなっている保存書庫の資料の点検と除籍を中心に取り組みました。

次に2点目、講演会等の開催については、地域の方々への発表の場も提供しながら取り組みました。例えば西荻図書館の利用者を講師に迎えての講演会、読み聞かせなどの練習を続けてきたグループによる初めての発表会、地元で活動している朗読グループによる朗読会などの開催があり、日ごろの学習成果を発表していただくことができました。また、東京女子大学との協働事業、荒正人「文化デモンストレーション」との西荻アカデミアなどは、外部から講師をお招きして開催しましたが、あわせて図書館の入り口にありますショーケースに関連図書を展示いたしまして、日頃なかなか利用者の方に目に触れていただくことができないこの大型本、とても大きな大型本なんです、それを展示しまして、活用することができました。

続いて3点目、親子から小中学生までを対象に事業に取り組みました。多くのボランティアの方々の協力もあり、定例のおはなし会やあかちゃんタイムを初め、パネルシアター、ハンドベルコンサート、そして日フィルコンサートなど、さまざまに開催しまして、一部行事の開催後はホールが参加者の交流の場ともなりました。中学生の協力による中学生のおすすめ本の展示や中学生お話し会も行われましたが、荻窪中学校の文芸部によるお話し会のほか、職場体験の中学生も読み手としてお話し会に参加しまして、ときどきながらも達成感を味わっている、そんな感じが伺われました。そのほか、児童書のコーナーには、少しでも利用しやすくなるようにと書架の案内図や——このようなものをつくったんですけど、カラーにしまして、今までのものに比べて見やすくいたしました。そしてあと、児童書の

分類表なども刷新しました。

最後に4点目ですが、他機関との連携について、近隣行政機関による地域子育てネットワークによる連携や、近隣小中学校の学校司書との情報交換会を開催し、各機関との関係づくりを行い、図書館事業への協力を得ることができました。また、図書館側も地域へ出てまいりまして、出張お話し会やリサイクル本の提供などを行い、協力をしてまいりました。

続いて、28年度の取組としましては、わかりやすく利用しやすい書架づくりを目指しまして、保存書庫整理を継続、蔵書数を適正規模に近づけるとともに、開架書架の更新を図ります。また一部書架に、とてもわかりにくく、利用者の方からちょっとわかりにくいよという声のあるところがありますので、思い切って並べかえて、わかりやすい並びにしたと考えています。さらに館内の各種お知らせ、書架の見出し、書架案内図などを更新していきたいと考えています。

事業では、利用者により身近な図書館と感じていただけるよう、ボランティアや近隣の団体との協働事業などを引き続き行い、多くの皆様に足を運んでいただけるよう、行事にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

西荻図書館は以上でございます。

○企画運営係長 はい。

続きまして、阿佐谷図書館、お願いします。

○阿佐谷図書館長 阿佐谷図書館です。

阿佐谷図書館は平成5年に開館しまして23年が経過し、指定管理による運営は4期目の10年目を迎えました。4期目の初年度ということで、新たな気持ちで、5年間の先を見据えた運営をしていきたいと思っております。

それでは、27年度の事業報告をいたします。27年度は前年度の事業を継承しつつ、職員全員でつくり上げる事業やテーマ性を設けた事業を展開し、利用者と職員の双方によって、常に発見や変化がある図書館づくりを目標に掲げました。新たに取り組んだことを中心に説明いたします。

調べもの相談の充実の一つとして、利用者用端末機の利用推進月間を実施いたしました。配付した質問カルテをもとに、マンツーマンで操作説明を行い、多かった質問は共有し、職員が統一した対応がとれるようレベルアップに生かしました。また、地域の情報発信として、こちらの「あさがや楽」第3号を刊行いたしました。今回は青柳いづみさんの巻頭エッセーのほか、阿佐ヶ谷会を特集し、井伏鱒二、太宰治、伊馬春部を紹介し、文学講

座でもこの3人を取り上げ、多くの方にお集まりいただきました。新規事業といたしましては、朗読会「聞いて楽しむ阿佐ヶ谷の文学」を開催、地元密着の事業は大変好評をいただきました。

次に、近隣の4中学校との連携については、継続と拡大を図ることができました。こちらの「中学生がえらんだイチオシ本2016」の冊子の発行、中学生によるおはなし会、出張講座を行うほか、事業で制作した作品を展示するYAギャラリーを新設いたしました。各学校から展示依頼が相次ぎ、大変盛況となりました。

また、新規取組といたしましては、8月に「戦後70年 平和を考える」、9月に「バリアフリーを考える」など、テーマを定めた月間を設け、自主事業、展示、映画界と多角的に展開いたしました。前年度計画立てのみで実行できなかった手話についても、OJT研修で習得した挨拶言葉をカウンターで実践し、手話おはなし会も開催することができ、テーマを意識した運営をすることができました。そのほか、職員全員が選書した一般向け展示「ブラインドブックフェア」の開催や、ボランティアとの連携をより強化し、新たな事業を増やすことができました。

広報の強化、資料の除籍の推進など、課題もあるので、計画立てをしっかりとしながら28年度の運営に生かしたいと思っております。

次に、28年度の事業計画ですが、基本的には今までの運営を踏襲しつつ、さきに述べた課題には年間を通じて取り組んでまいります。今年度は新規事業として、読書会の開催や利用者協働のブックリスト作成を計画しております。区民参加が気軽にできるような交流空間づくりを目指します。また、事業のみならず基本となる図書館サービスの均一化も大切な要素です。定期的な研修を行うほか、利用者満足度調査や職員の蔵書アンケートの内容を生かした資料収集にも取り組む所存でございます。

阿佐谷図書館の説明は以上です。

○企画運営係長 はい。

では、南荻窪図書館、お願いします。

○南荻窪図書館長 南荻窪図書館です。よろしく願いいたします。

では、まず平成27年度事業報告をいたします。お手元にあります資料の南荻窪図書館館別自己総合評価をごらんください。

まず評価すべき点としましては、全体として、27年度以前から行ってきたサービスの質を落とすことなく維持し、運営できたことでございます。

次は、評価できる設定目標の中から3点についてご説明いたします。

まず、区民の調べ物に役立てるための参考資料の充実を図り、あわせてレファレンスで適切な資料を案内できるような、基本的なレファレンスツールの研修ができました。次に、近隣の荻窪小学校との連携を、さらに進めることができました。毎年行っている全学年全学級に個々に行うブックトークでは、図書館スタッフがテーマをもとに絵や言葉を描いた紙を張り、見やすくわかりやすいように図書の紹介を行いました。さらに図書館だよりの内容にイベント情報や図書館サービス等を紹介するコーナーをつくり、より見やすく、興味を持っていただけるものとなりました。

課題、改善点としましては、第1点目は、図書館資料の充実を図ると同時に、今後は既存図書の廃棄処理ペースを調整し、適切な蔵書管理をしていく必要があります。2点目は、図書館事業のうち、参加者が想定より少なかった会がありました。今後は企画段階から内容の精査、広報、宣伝の強化を図っていきます。

では、次に平成28年度事業計画の主な項目につきましてご説明いたします。

1、学びの場としての図書館の実現の項目では、区民の皆様の学びや自己表現を支援するため、次の事業に取り組みます。まず、図書館資料につきましては、利用者のニーズに合った資料の収集に努めます。また、重点課題である環境関連資料の充実を目指します。環境問題のうち、生物多様性についての区民の関心に応えるため、特別展示コーナーを設けます。2、知の共同体としての図書館の項目では、レファレンスサービスにつきましては、区民の皆様の学びを支援するため、レファレンス専門の講師が当館の職員に初級、中級、上級のレベルに合わせた研修を随時行い、スキルアップさせることにより充実を図ります。3、楽しい交流空間としての図書館では、乳幼児とその保護者が気楽に来館できるあかちゃんタイムの充実化を図ります。誰もが利用しやすい図書館運営を目指します。最後に4、目標実現のための基盤づくりの項目では、広報活動については、おたよりをさらに魅力のある情報発信の場にすべく、利用者層に合わせた掲載情報の再企画、再検討を行い、内容の見直しに努めてまいります。

以上で説明を終わります。詳細につきましてはお手元の資料をごらんください。

○企画運営係長 では、下井草図書館、お願いします。

○下井草図書館長 下井草図書館です。どうぞよろしくをお願いします。

私からは、下井草図書館の平成27年度事業実績及び平成28年度の事業計画についてご説明いたします。内容につきましてはお手元の資料のとおりでございますが、その中から主

なものについてご説明いたします。

最初に平成27年度の事業実績でございますが、平成27年度から新たに始めました事業といたしましては、児童書に特化いたしました「こどもリユース市」、児童館、保育園等を対象とした公共団体リユース、特別展示として、小中学生に夏休みなどの長期休学中に読んでもらいたいお薦め図書を各休業期間に展示いたしました。また、小中学生への多目室の学習室開放についても、従来、夏休み、冬休みの期間の開放でしたが、27年度からは春休みの開放もすることといたしました。

既定事業でございますが、学校支援といたしまして、近隣の中瀬中学校1年生に対し、国語の授業の3時間目と4時間目を使用し、下井草図書館において図書館を利用した調べ学習のレクチャーを3日間行いました。この事業は平成24年度から始め、昨年で4回目となります。生徒たちは図書館を利用した調べ学習のレポートが宿題として出され、その中で優秀な作品は、杉並区調べ学習コンクール、全国調べ学習コンクールへと進み、最後にレクチャーを受けた下井草図書館で展示がされることとなります。一昨年は全国大会に入賞することができましたが、昨年は残念ながら入賞することができませんでした。しかしながら、今後とも学校としっかり連携をとりながら、生徒たちの図書館を利用した調べ学習能力が向上するよう頑張っていきたいと考えております。

次に、工作会でございますが、下井草図書館では毎月1回工作会を実施しており、昨年度は12回実施し、360名の方が参加されました。8月にはスペシャル工作会と銘打ち、外部講師による手づくり飛行機づくりを実施いたしました。当日はJ:COMの取材もあり、子供たちがつくっている様子や、でき上がった飛行機を喜んで飛ばしている姿がテレビ放映されました。

続きまして、平成28年度の事業計画についてでございますが、平成28年度は従来の事業を充実させていくだけでなく、新たに井草地区最大のお祭りであります井草区民センターまつりに地域の一員として参加を予定してございます。区民センター内に下井草図書館のブースを開設し、図書館で役目を終えた本を、お祭りに来られた区民の方々にリユースを考えております。

次に、大学の先生による講演会でございますが、当館は名作文庫コーナーを設置しておりますので、名作文庫にかかわる内容での講演会を実施してきておりますが、どうしても年配の方の参加が多うございます。今年度は若い方にも参加してもらおうと考え、回数を1回増やし、若い方にも興味を持ってもらえる日本昔話をテーマにした講演会を予定して

ございます。桃太郎等が携帯電話のコマーシャルに出て、いろいろ話題を呼んでおりますので、若い方にも関心が持たれ、参加していただけるのではないかと期待しております。

私からの説明は以上でございます。ありがとうございました。

○企画運営係長 はい。

続きまして、高井戸図書館。

○高井戸図書館長 高井戸図書館です。よろしくお願いいたします。

まず27年度の報告です。高井戸図書館は子育てを重点テーマとして多くの事業を実施しておりますが、実際に毎日図書館に足を運び図書館の空間を楽しまれているのは、年配の方が非常に多くいらっしゃいます。そこで、27年度は年配の方に喜んでいただける講座と、その講座に絡めた資料の展示に力を入れました。講座内容といたしましては、趣味の講座として「古文書を読んでみよう!」、クラシックカメラの楽しみ方、大人の西洋名画講座、「能へのいざない」、真打ちの方による落語独演会です。健康や美容の講座としては、指先健康法、「けいらくビクス」健康法、大人のお化粧法などです。ポスターを張っているそばから、申し込みたいんだけども、と言われました。また、申し込み開始時には電話が鳴り続け、30分で満員になるような講座が続出いたしました。驚くほどの反響がありました。子育てに力を入れている図書館が、まれに大人向けの事業を実施したから参加者が多かったのか、潜在的なニーズがあるのか、今後きちんと分析して、サービス配分に生かしていきたいと考えております。

もう一つの大きな報告事項といたしましては、高井戸中学校と高井戸図書館がつながっているドアがあるんですが、それをお昼休みに開放することができました。高井戸中学校の生徒さんたちは、お昼休みにどやどやと図書館に来て、読書を楽しんでくださっています。

次に、28年度の事業計画です。28年度は子育て支援の切り口を少し変えまして、職業やボランティアで子育てを支援している方々への支援というサービスを充実させております。具体的には、絵本の読み聞かせ講座、紙芝居講座、パネルシアター講座、エプロンシアター講座、わらべ歌講座などです。一般的な内容ではありませんので、参加者が限定されるとは思いましたが、学ぶ場が少ない現状を踏まえ、実施する必要があると感じまして、計画いたしました。どの講座も連続講座の形をとり、1回目は講義と講師の実演、2回目は生徒、参加者が実際に実演をして、講師にアドバイスをもらえるような形にしております。確実にスキルアップできる講座になりました。また、新たに読み聞かせに向く資料を集め

たコーナーを開設いたします。このコーナーの本は貸し出しできませんが、そのかわりにいつ来ても自分が読みたい本に、読み聞かせをしたい本に出会うことができる、そういうコーナーとなります。

以上でございます。ありがとうございました。

○企画運営係長 はい。

続きまして、方南図書館、お願いします。

○方南図書館長 方南図書館です。よろしく願いいたします。

まず方南図書館は、区の南東のほぼ区境に位置します、2階が私立保育園の併合施設でございます。平成27年度の事業実績と平成28年度の計画の特徴的なものについてのみご説明させていただきます。詳細はお手元の資料をごらんくださいませ。

まず、平成27年度は書架サインを統一感のある色彩にし、どこからでも目的の書架をご案内できるよう、立体化した見やすいものに一新いたしました。こちらは職員の手づくりとは思えない完成度だと自負しております。

また、行事に関しましては、ヤングアダルト向けの講演会を中学校へ提案いたしました。アナウンサーから学ぶ、「伝わるはなし方」講座でございます。英語は学校で発声や発音を習うのに、日本語はきちんと教わる機会がありません。そこで、今後大事な場面でまごつかないような発声と発音の基礎を学びませんかという企画でございます。担当校である泉南中学校と年度初めから相談を重ね、元ラジオ関東のアナウンサーを講師に招き、秋の進路指導の後の時間をいただいて、希望者に実施し、好評を博しました。こちらの企画は、年度末の学校司書連絡会で報告いたしましたところ、他の担当校から、ぜひこちらでというご要望をいただき、本年度は、一昨日、和田中学校で実施しております。

また、開館10周年記念事業といたしまして、昨年この時期に活動をご報告しておりました地域の方々との共同制作の絵本も2月に無事に完成いたしました。こちらの「釜寺のひみつ」でございます。こちら、小学校2年生から80代のご長老まで、合計14名の方、ボランティア14名の方と、出版関係のアドバイザーの方2名を加えた16名で、地元の名勝釜寺の由来をほぼ1年かけて絵本にしたものです。区内各場所へ配付済み、また都立中央、都立多摩図書館にも所蔵していただいております。本年度はこの制作過程及び原画の展示会を今月初めに実施し、展示会にしては異例な、100名近い集客がございました。会場内に設置したアンケートボックスにも、たくさんのお言葉をいただきました。こちらの本は今年度英訳を試みております。杉並地域資料の英語版としても活用でき、中学生の英語教材

の身近な副読本としてもご利用いただけるようにと、中学生の英語のレベルに合わせて英訳しております。

最後に、「東京図書館制覇！」でも話題に上りました、今年3回目となります秋の読書週間、「おたのしみ読書バッグ」も既に準備に入っております。ぜひ、方南図書館へ一度足をお運びください。ありがとうございました。

○企画運営係長 はい。

それでは、最後に今川図書館、お願いします。

○今川図書館長 今川図書館です。よろしく願いいたします。

私からは、今川図書館の平成27年度の事業実績及び28年度の事業計画についてご説明申し上げます。内容につきましてはお手元の資料のとおりでございますが、その中で、新規事業などを中心に、特徴的な事業を何点か申し上げます。

初めに、当館の重点課題の緑化推進に関する事業では、27年度の新規事業として、地域のNPO団体の役員を講師に、「善福寺の自然を楽しむ・まもる」と題したみどりの講座を実施したほか、地域在住の写真家と周辺の史跡や自然を撮影しながらめぐる散歩写真教室を開催しました。いずれも重点課題の周知度を高めるだけでなく、区民の方の知識や技能を図書館において参加者と共有することができました。28年度も図書館敷地内の植物を図書館の本を使って調べる教室や、近隣の花屋さんにご協力いただき行うワークショップなどを通じて、重点課題の周知と、図書館が地域の学びの場となるような事業を実施してまいります。

レファレンスの充実では、27年度は児童向けに作成した「調べものガイド」を使ったゲーム感覚の図書館ツアー、「図書館のなかで宝探し」を実施し、楽しみながら図書館の利用方法や本の探し方を子供たちに学んでもらいました。今年度も夏休みの調べ物学習に生かせるよう、夏休み早々に実施する予定にしております。

子ども読書活動の推進事業では、子供たちに本への興味を持ってもらえるよう、27年度は新規事業として、「ものがたりの主人公になっちゃおう」を実施しました。「魔女の宅急便」や「赤ずきんちゃん」など、9作品の主人公の衣装や小道具を職員が手作りし、本と展示、子供たちはこれらを身につけ、まるで主人公になった気分で本の世界を楽しんでもらいました。

また、子供にどのような絵本を読めばよいか悩む保護者を対象に、本のえらびかた・よみかた講座も新たに実施し、大変好評でした。28年度もこれらの内容をさらに充実しながら

ら実施したいと考えております。

他機関との連携では、27年度は近隣の中学校の図書館司書と連携し、こちらの、中学生が選んだブックリスト「Dog ears」を作成、近隣中学校に配付いたしました。28年度にはこのブックリストと紹介された本をYAコーナー近くに展示し、中学生に利用してもらいました。また、今年度は小学6年生に、今川図書館や近隣中学校図書館の案内と、各図書館が薦める本を紹介したチラシを今川図書館が中心となって作成し、小学校卒業前に配ることも中学校図書館司書と、現在、計画しているところでございます。

以上、簡単ではございますが、今川図書館の説明とさせていただきます。ありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは、ここまで、何か質問やご意見はおありでしょうか。どうぞ。

○委員 各館の頑張りにつき、ご説明いただいて、大変頑張っておられることを再認識しました。私は、事業計画があつて、評価があつて、これを充実する。そうやって毎年やるべきことに進歩があつて、10年後の目標に近づく。そんな簡単にできることじゃありませんけれども、少なくとも去年と今年の報告を聞いて、全く同じでは進歩はありません。私もはこんなに頑張りましたはよくわかりました。それは十分わかるんですけども、じゃあ、果たしてそれがその目標とするものに近づいているのかどうか。誰かがきちんと理解し、おっ、これはいいところへ来ているぞといった判断がある体系、やり方になっているのかなということを申し上げています。去年も私はずっと言い続けているんですけども、どうもこの評価体系というものに何か問題があるんじゃないかと。みんなが一生懸命やっているんだけど、そこに行く先が本当に見えているのかと。

それをなぜかと自分なりに考えてみますと、この場で聞いていただだけでも、働いている皆さんの意見はすばらしいものがいっぱいある。

こういうことをまとめて杉並区立の図書館としてみんなで提案し、実現したら、全国の図書館でも一番になれるんだろうなというような芽がいっぱいあるんだと思うんですね。ただ、しかし、それがばらばらで、曖昧です。じゃあ、杉並区の図書館として、この項目でいけば、全体でみるとどの辺の水準に行っているのか、あるいは全然行っていないのか。そういったことも含めて、区民の多くが知りたいことは、「今、こんなことをうまくやっています」ということだけではなくて、「今年は、皆さんの要望をこんな風に変えました。この面ではこんな風な工夫をして皆さんに喜んでいただきたく考えています。この点

の実現は難しいのですが、こんな着地点を求めて頑張っています」といったように、「住民との対話をしながら、10年後の目標像をはっきり示しながら、図書館共同体を創造していくこと」が大切じゃあないかと思うんですね。杉並区としては、美辞麗句の羅列ではなくて、10年後の図書館としてはこういうビジョンを持って、今はこの段階にありますよと。これは全国の図書館からするとこんな段階であって、杉並区の人たちは胸を張っているですよというようなものが、すなわち目に見える図書館活動というものが求められている。今聞いた各館の年間事業を拝聴して思うのは、「当たり前の仕事」であり、区民の人たちが聞いて、ああ、よくやりましたねというようなものでは、僕はない、という感じがしているんです。で、どうすべきかということなんですが、やっぱりこの評価体系というのは、杉並区立図書館が、本当にすごいな、いいことをやっているなということを知り、叱咤して、そしてみんなを駆り立てると、そういうものでなければいけないと。私は民間のビジネスマンでしたから、やっぱり評価体系というのは評価するほうも真剣ですし、評価される者も真剣です。それで、かんかんがくがくの議論をして、あなたのボーナスは100点あるいは80点だと。そういうものがあって—まあ、サラリーマンと図書館関係者は違うかもしれませんが、そういう精神というのは変わらないんだろうと思っているんです。

したがって、一番言いたいことは、やはり本部、これが中央図書館なのか何かよくわかりませんが、今年これを重点目標として、どんな館であっても、杉並の図書館として恥ずかしくない、これだけはやっていきますよと。あとは各館で事情も斟酌しながらやって、こういうことをやった、いいことをやった、そこを本部がきちんとみて査定し、横展開していく。今ここで話をしたようなことは日常的に中央図書館なり本部と話をし、それはその内々の中で、これは、じゃあ、全館的にやっぱり実現していこうではないかと、これを来年の主要目標にしようじゃないかというようなその評価体系、事業計画の作成体系というものをうまくしていかないと、毎年同じことをやっているんだけど、どこまで来ているのかはわからんということを繰り返していることについては、私自身としては非常に歯がゆい。ご説明をお聞きしながらも感じたというのが率直な意見です。

以上です。

○会長 それについては、何か。

○委員 一言だけすみません。

去年、私、初めての評価を行わせていただいて、そのときに、せっかく図書館長さんが

貴重な時間を割いてきてくださってプレゼンして下さったのを、ほう、ほうと感心して聞くだけで、それが評価に結びつきませんでしたので、今年はばっちりメモをとりましたので、これをもとに評価させていただきたいと思います。去年より感じたことは、重点課題について、皆様、本当にアピールして下さったので、評価がしやすくなったと思いました。ありがとうございました。

○会長 ほかに。どうぞ。

○委員 私、今どなたも説明されなかったんですけれど、平成28年度から30年度のこの中期計画というんですかね、これが出されていて、去年はなかったもので、これは非常によかったなと思っています。

あと、ちょっと二、三質問なんですけれど、一つが、まず中央図書館とTRCの情報共有ということで話がありましたけれど、実は先日のワークショップのときに2名遅れていらした方がいらっしゃいました。で、どうしてかということの後々聞きましたらば、受付のほうで、今日ワークショップがあるんですけれど何時からでしょうかという質問をしたときに、2時からということでお返事をいただいたそうです。それで、その方は実は12時過ぎからいらしていたらしいんですが、2時からということで、じゃあ、自分なりに館内を見て回ってということをしていて、実はワークショップの開始時間は1時だったんですね。

その2時という時間の紹介も、ぱっと出てきた2時ではなくて、あたふたとして、何人かの職員の方に、いつだっけという質問があった後の2時という返事だったらしく、結局1時からの開始には30分遅刻していらしたんですけれど、その辺の情報の共有、連携というのがどうなっていたんだろうかというのが、まず、中央図書館とTRCの連携のことで一つ。割と、例えばこの図書館協議会が地下の視聴覚室で2時から開催されているということも、今年度ではないんですけれども、過去に、何時からどこですかというふうなことを聞いたときに、やはりカウンターで答えられなかったということがあったとも聞いています。

次に、これはちょっと私の疑問というかわからないので、ぜひ、図書館の方に、この次でもいいのでお返事いただければと思っているのが、今ほどの図書館でも学校図書館と連携していますよね。私は、実際、どこの学校図書館も、ここ1年、見学に行ったことがないので状況はわからないんですけれど、幾つかの図書館で、学校図書館の図書室が図書室として機能できない状態であるということをお聞きしたいなと思っています。

中には、完全に図書室自体がもう子供の人数が増えたということで教室になって、廊下  
に本棚を並べて図書室のかわりにしているであるとか、図書室の半分は完全にパソコン室  
になっているとか、そういうことも、どこかはきちんと聞いていないんですけど、伺っ  
ています。そういう中で、学校司書さんたちが恐らくもうとても頑張っていっちゃると  
思うんですけど、図書館としては、例えば学級文庫を充実させていくであるとか、ブッ  
クトラックの貸し出しであるとか、そういうことも視野に入れていっちゃるのかなとい  
うのが、総合評価とはちょっと違うんですけど、学校連携されているということで、学  
校の状況が、小中、今65校ですか、64ですかね。それがどうなっているんだろうというの  
をお聞きしたいと思いました。

あと、もう一点なんですけれど、中央図書館が地域資料の収集ということに力点を置いて  
いるというのはもっともなんですけど、地域館のほうでも地域資料を集めていると。そ  
れはもう、本当にやらなくてはいけないと思うんです。特に、やっぱり杉並がいろいろ市  
民運動がこう盛んに行われていたころの、すぐ前の体育館がまだ公民館だったころに、原  
水禁の運動も起きていたようなころの方たちが、皆さん80代とか90代の高齢になっていら  
っしゃって、そのときの、例えば本当の、まいたチラシであるとか資料やなんかが、恐ら  
く個人でお持ちなのが、もしも亡くなられたりした場合に本当に散逸していくのは、それ  
は杉並区にとってはよくないと思うので、郷土資料館もありますけれども、図書館もぜひ、  
原水禁運動に限ったことではなく、杉並の資料を、やっぱりばらけているんじゃないかな  
というのを感じて。

今、郷土資料館で阿佐ヶ谷文学館とか、そういう展示をしていますよね。そういうとこ  
ろにもあり、阿佐谷図書館にもあり、中央館にもありということで、杉並資料のデジタ  
ル・アーカイブ化は進んでいるのかな。いるとは思いますが、やっぱりここでなくし  
てしまっただけでは、もう取り返しがつかないことになるので、郷土博物館とか分館とかも協力  
して、ぜひ、その杉並資料をネットでつないででも、どこに何があるかということを整備  
していただきたいと思っています。

以上です。

○会長 はい。先ほど、図書館での催し等についてのカウンターでの案内という点は、す  
ぐにでもできることなので、徹底していただきたいと思いますが、そのほかについて何  
か。

○中央図書館次長 はい。TRCと情報共有は図ってまいりましたが、手違いがあったとい

うことで、ご参加いただいた方には大変申しわけないことをしてしまったと思っております。次回からは気をつけて周知徹底してまいりたいと思います。

それと、学校図書館との連携の部分で、ご質問いただいた、教室が足りなくなっていて、生徒さんがすごく多くなっている学校があるという話は聞いています。先ほどの廊下にと  
いう話も、たしか天沼小で、全校図書館のような感じで、部屋がないので、ブックトラックに本を置いてという話は聞いております。パソコン室というのが、申しわけございませ  
ん、どこの学校だかがはっきりわからないんですけれども、おっしゃったような状況が確  
かにあることは事実でございます。

それに対して、図書館として対策というのは、教室が足りなくなっているということに  
関しては……

○委員 そう、それはもちろん図書館はできませんよね、教室のことは。

○中央図書館次長 はい。済美教育センターのほうで、学校図書館・学校司書と連携して  
対応しております。

○委員 全部どうなっているかというようなことは、各地域館がもう把握していらっしや  
るということによろしいですか。

○事業係長 はい。事業係ですが、学校司書を統括している済美教育センター、学校図書  
館担当、支援担当というところがありまして、それは中央図書館とは違う課ですけれども、  
そこと毎月会議を持っています。

先ほどの、図書室、図書館がなくなっちゃったというのは、確かに天沼小の例なんです  
ね。読み物と調べ学習用の資料と、たしか階数を分けて、ちょっと引っ込んだスペースに  
ブックトラックを並べて対応しているというのは、そういう話も聞いていますし、あと天  
沼小は図書館バッグの配付校なので、そこで見に行ったときにそういう対応をなさって  
いました。ただ、休み時間にちょうどかかったんですけど、子供たちはたくさんそこで利用  
はしていましたね。

そういう図書館がなくなってしまった学校に対しての支援というのは、学校図書館の担  
当の係長からそういうお話があれば考えていきたいと思っておりますけれども、今のところは、  
そこに特化したサービスは、していません。ただ、全部の学校に対して、依頼があった  
場合に、調べ学習資料の貸し出し、テーマに沿った本の貸し出しとか、ピンポイントでこ  
の本を、図書館の本を貸し出ししてほしいといったサービスは定例で行っていますし、あ  
と学級貸し出し、子供たちが読む読み物の貸し出しも、各地域館を含めて全校でやってお

りますので、サービスとしては、学校に対してはやっているというところですね。

○中央図書館長 ちょっと補足をよろしいでしょうか。

○会長 はい。

○中央図書館長 区立図書館と学校図書館あるいは学校司書との連携については、子ども読書活動推進計画に基づいて日ごろから連携の強化を図っておりますし、先ほどの各地域図書館長の事業実績等のプレゼンの中でも、具体的な事例として、地域の小中学校とのさまざまな特色ある活動の一端もご紹介させていただいたところでございます。そうした活動については今後とも引き続きやっていきたいと思っております。

委員のほうからご指摘がございましたが、最近の児童生徒数の増加傾向の中で、学校の普通教室などが若干不足しているような学校が見られ、具体的には、次長もお答えしたとおり、天沼小学校などでは教室不足ということで、いろいろ工夫して取り組まれているという話は聞いております。恐らく教育委員会の教育施設担当の所管のほうでは、そうした教育環境の実態については、しっかり把握していると思っております。

今後の対応としましては、子どもたちの読書活動支援を含めて、子どもたちが学び、成長していくのにふさわしい、望ましい教育環境を整えていく必要があるということは言うまでもありませんので、学校図書館の運営などに支障が出るような状況があるのかどうか、まだ正確に把握しておりませんが、済美教育センターに学校図書館支援担当の部署もありますので、そちらとは十分情報共有を図りながら、従来のような連携のあり方に加えて、さらに工夫した連携の手だてが必要かどうか検討して、そのあたりはしっかりと連絡をとり合いながら、取り組んでいきたいと思っております。

それから、地域資料の件ですけれども、これまでも社会教育機関としての図書館と郷土博物館等とはいろいろと連携しながら、地域の郷土資料や行政資料の収集、提供に努めてきたところでございます。

今お話の中でございました、例えば原水爆禁止署名運動発祥の地 杉並という部分では、郷土博物館のほうでも当時のさまざまな原資料を含めて収集し、いろいろと工夫しながら企画展示しているところでございますし、図書館のほうでも、近年になっても研究著作としてさまざまな資料が発行されていますので、そういったものは積極的に収集し杉並資料として区民の皆さんにご提供しているところでございます。

原資料としての例えばチラシやポスターというレベルになると、図書館側で積極的に収集というのなかなか難しいところがございますので、郷土博物館等へも今日のお話など

も伝えながら、こういった形で後世にそういう情報を継承していけるのか、その辺は検討課題とさせていただければと思います。

それから、少し長くなるんですが、先ほど委員のほうから、評価体系につきまして本質的な視点からのご意見がございましたので、私からも補足させていただきたいと思います。

この図書館評価の目的は、PDCAサイクルの中で、図書館の運営やサービスの改善・充実につなげていくために、各館が行う自己評価とともに、図書館協議会による評価や利用者満足度調査も行いながら、体系的に取り組んでいるところでございます。

とはいえ、実際に各館の取り組みや実績がどの程度の達成状況にあり、成果にもつながっているのかを捉えるという点で、私自身は4月に着任して以降、課題もあるのではないかと感じておりました。そこで、改善すべき点としては幾つかあると思っていますけども、一つはやはり協議会による評価でいただいたご意見、ご指摘が翌年度の事業計画等にどう反映されているのかが見えにくかったという点がございます。そこで、前年の評価でご指摘いただいた改善すべき点などについては、時間が多少前後しましたがけれども、各館ごとの協議会のご指摘に対する対応の考え方や取り組みを整理してペーパーとして皆様方に返させていただいたところです。今年度の報告書の取りまとめの中でも、ご指摘などが示された際には、それらへの対応の考え方、次年度の計画への反映の仕方を盛り込みたいと考えております。

それから、達成度合いや成果がどの程度進んでいるのかなかなか見えにくいという点につきましては、各館が独自に設定している計画数値、達成目標ですね、そのあたりをより客観的に評価できるようにするという意味で、その達成目標の数値の設定の仕方なども、もう少し工夫の余地があるのかなと思っております。そして、我々の仕事のよりどころとなっているのは区立図書館サービス基本方針であり、それがまさに目標そのものでございますので、それもしっかり見据えながら、各年度の協議会による評価、あるいは利用者満足度調査の結果をもとに、今年度の運営状況報告の中に、中央図書館としての受けとめ方を評価のまとめという形で新たに盛り込み、目標に対してどこまで届いているのか、そして課題は何か、次年度以降どういうふうに取り組んでいくのかについてしっかりお示しすることで、委員のご指摘にも沿ったような方向で、一步一步改善ができればなというふう考えているところでございます。

お答えになっているかどうかはあれですけれども、以上でございます。

○委員 ええ、よろしく願いいたします。すぐできるとは思いませんけど、一步一步い

い方向へ行ったらいいなど。

○会長 どうもありがとうございました。

ほかに何かご質問、ご意見はございますか。

それでは、ちょっと協議、決定する必要もあるんですけど、(4)の「図書館サービス評価の取組について」について説明していただきます。

○中央図書館次長 はい。では、私から図書館サービス評価についてご説明いたします。

皆様のお手元の「平成28年度図書館サービス評価の取組について」、右肩に「修正差替資料」と書いてあるものをお開きいただけますか。前回の協議会で懸案となっておりますた図書館サービス評価の取組について、図書館協議会による評価のうち、数値化をめぐる箇所を中心に下線部分を修正したほか、字句の微修正を加えて、会長、副会長と調整の上、取りまとめましたので、その結果をご報告いたします。

こちら、主な修正箇所ですが、2番、見直しの概要の部分です。また、下線表記のない正式な差替資料、右肩に「資料8」と記載があるものでございますが下についております。あわせてお配りしておりますので、ご確認ください。

では、変更した箇所を中心に申し上げます。

見直しの概要の(1)のところですが、見直しの基本的考え方で、下線の部分、「P D C Aサイクル」の後ですが、「の一環として、サービス基本方針及び各図書館の事業計画等に示された目標の達成度や成果を踏まえた評価を適切に行い、」と修正いたしました。

次に、(2)は特に変更はございませんで、(3)の変更後の実施方法のところ、下線部分を、各図書館は、「サービス基本方針及び事業計画に基づき、各目標等に係る計画の取組実績等」を踏まえた自己評価を行う、という形に修正いたしました。その②のところ、下線の部分ですが、この図書館協議会、27年度の杉並区立図書館の取組状況について、「部会を設置のうえ、」を入れています。あと、各館の自己評価票、実績資料及び利用者満足度調査の結果などに基づき、「定性的な評価を行う。」と修正しております。次に③のところになりますけれども、利用者満足度調査が前回「④」になっておりましたが、「③」になります。平成27年度の方ですが、下線部分を、利用者の図書館サービスへの満足度とニーズを把握するため、「以下により実施した利用者満足度調査の結果は、図書館サービスの「成果」「効果」を把握するための資料として活用する。」と修正しております。その下の米印の「平成28年度の利用者満足度調査は6月の3日間（金～日曜日）で実施することとし、調査票様式についても所要の見直しを図る。」を入れてございます。評価

のまとめが前回「③」となっておりましたが、今回、「④」と修正いたしております。

主な修正箇所は以上でございます。

なお、評価方法につきましては、協議会で部会を設置して、委員の皆様全員の参加により実施、評価をすることについて了承が得られましたら、本日、協議会を一旦閉じた後に、引き続き評価部会という形でご説明させていただければと考えております。本来ですと、部会を別の日に開催することが望ましいんですけども、報告を12月に想定しているという事で、早目の評価作業の着手、完成が求められるということと、委員の皆様がご多忙の中、近日中にご都合がつく日が限られていることを考慮したためです。評価自体2年目を迎えて、委員の皆様も要領をご存じなので、部会で別添資料により事務局が簡潔なご説明をした後、評価作業に入っていただければと思っております。

私からは以上でございます。

○会長 はい。

何かご質問はおありになりますか。

○中央図書館長 ご質問がないようであれば、私のほうから図書館評価について若干の補足のお話をさせていただければと思います。

この間、正副会長とやりとりをさせていただいて、最終的に修正差替資料を改めてきょうご配付させていただきました。修正箇所は幾つかございますけれども、やはり最大のポイントは、協議会による評価のところの数値化をめぐる部分でございます。前回は皆様方からいろいろなご指摘、ご意見をいただきましたので、そのあたりはしっかりと受けとめさせていただいて、きょう資料としてお配りしたような修正を図らせていただきましたので、よろしく願います。

あわせて、先ほど委員からも、評価体系、運用のあり方のご意見もございましたが、そちらとも関連しますけども、若干補足を申し上げさせていただければと思います。

ご案内のとおり、平成20年に図書館法が改正されまして、図書館の運営状況に関する評価改善、あるいは地域住民に対する情報提供、これらが努力義務化されたところでございます。この法改正を受けまして、平成13年に告示されていた公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準についても、新しい望ましい基準にするために全部改正が行われたところなんです。その新たな基準の告示の際に、国、具体的には文部科学省のほうですけれども、全国の地方公共団体宛てに通知がございまして、その中に、図書館サービスの向上を図るために、目標の設定に当たっては、日本図書館協会作成の目標基準例も参考にしながら、数

値で設定することができるものは、できる限り数値目標とするという点も留意事項として示されたところでございます。

現在、杉並区におきましては、協議会委員の皆様方による評価に際して、評価資料の一つとしてご活用いただいている図書館評価票の2という資料になりますけれども、そこに評価項目、目標にかかわる指標に関連して、各館が計画数値を任意に設定し取り組んでいるところでございます。各館が行う自己評価につきましては、先ほどの委員のご指摘もございましたけれども、より客観的に取り組みなどの達成度を検証して、次の年度の業務の改善に活用できるようにすることが大事なポイントですので、ほかの自治体の取り組み事例なども参考しながら、達成目標として、基準となる目標値、計画数値の設定のあり方を検討していくことが求められていると私どもは考えております。このため、事務局のほうではこうした考え方に立って、各館が行う自己評価における達成目標に関する調査・検討を引き続き行って、区立図書館の点検評価の充実に努めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

私の補足は以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○会長 何かご質問はありますか。

○委員 ちょっと関連質問なんですけれども、図書館の各館の事業の評価というのは図書館協議会が行うんだという規定と、そうなった理由というのは何かあるんでしょうか。

○中央図書館長 評価自体は、図書館法の中で、運営状況について評価、改善して、それを広く住民などに情報提供して、図書館サービスを進めていくというように定められ、それに基づいて、先ほど申し上げた望ましい基準の中で、実際の評価方法まで具体的に示されてはございませんけれども、数値目標を含めて考え方が示されているところでございます。こうした法律あるいは基準を受けて、杉並区としては図書館評価を行っていますけれども、全体の評価体系としては、まず協議会による評価の前提としては、各館による自己評価があり、それも評価資料としながら、協議会の皆様方に第三者の視点で評価をしていただく。あわせて利用者の皆様にも、具体的に図書館がサービス等を提供することで、どういう満足度——これはある意味成果ですよね。を持たれているのかを利用者満足度調査という形で把握をして、その満足度調査と各館の自己評価を参考資料にししながら協議会の皆様に評価をお願いするという形で関係要綱を定めて、現在、運用しているというところでございます。

○委員 規定を僕が見た限りでは、図書館協議会が事業計画の評価をするというふうには、

読めるのか読めないのかという表現で、どっちつかずの表現になっているというのが頭の中にあつたものですから、協議会が評価をするという、はっきりとしたその根拠と基本法というのは何かあるのかなというふうに思っていたんですけどね。

○中央図書館次長 杉並区立図書館経営評価実施要綱というのがございまして、そちらに「経営評価は、図書館が行う自己評価、利用者満足度調査及び杉並区立図書館条例第6条により設置された杉並区立図書館協議会による評価とする」と、第4条として定められております。

○委員 まあ、その条項をつくったときは付度できないわけですけども、本当にビジネスをやっている、あるいは仕事をしている人からすると、第三者が評価をするというところに無理があると私は思いますので、そこがどうした背景で図書館協議会が評価をしなければならんという条文になったのかなと。

○中央図書館長 それは一般的な図書館評価だけではなくて、いわゆる行政評価という言葉で言われていますが、行政サービスを行っている各自治体等の事業成果を、やっぱりしっかり評価・検証しながらサービス改善につなげていくということであつてはいますが……

○委員 それはそうですね。

○中央図書館長 ある意味その図書館版がまさに図書館評価ということでございまして、現状では、今、次長が申し上げたような根拠規定をもとに、実際のやり方については、協議会のほうに、取組の方針などをお諮りしながら取り組んできたところです。今年度どういうふうに進めるかというのも、改めて協議会のほうにお示しをして、協議会の皆様のほうで了承をいただきながら進めているということでございます。

○委員 すみません。非常に基本的なことを伺うんですけども、各館の自己評価でAとかBとかがあるわけで、これがその数値化という、おっしゃっている部分のことでしょうか。

○中央図書館長 いや、違います。

○委員 これはまた違うんですか、このA、Bというのは。これも、A、BとかCとかとあるんですけど、これ、何段階評価なんですか。Dまでしか出ていないんですけど、4段階評価ということでしょうか。ちょっとそこらの目安も教えていただければいいなと思ったのと、その数値というのが。

○副会長 それは部会での話じゃないでしょうか。

○中央図書館長 そうですね。

○委員 すみません、いいですか。

私なんかが言うのはちょっと僭越なんですけれども、図書館協議会が協議会として本当に機能しているのは、23区ではまれで、恐らく23区内の中では杉並区が唯一こうやって、一般公募を初め、区民が、学識も含めて一堂に集まって、図書館職員、図書館長、次長とこういうやりとりをしていて、本当にこういう会が会として存在していて、しかもこの会議録は全部文字に起こされて、ホームページ上にも公開されているというのは、東京23区内では、ないと思います。ただ、都下に行くと、そうではなく、かなり進んでいる行政もあって、町田市あたりは、非常に、そういう意味では図書館協議会が活発で、進んでいるのかなというふうに思います。

もちろん町田市も図書館評価は協議会の委員がやっていて、図書館協議会自体が、回数が、毎月やるらしいんですね。毎月協議会があるので、図書館の数は圧倒的に杉並区と比べると少ないですけど、もう本当に協議会委員と各館図書館長、中央館の職員の方と、何ていうんですかね、親睦を図るという言葉ではいけないんだと思うんですけど、ある意味、協議会委員の人も熱心に図書館行政に何かかかわっているなというのが町田市の図書館のホームページから伝わってきました。

私はたまたま協議会の第1回目の、昨年度の協議会の議事録を見ましたら、毎年、スタートのときに、この協議会の運営の仕方みたいなことから説明があって、委員は必ず挙手をして会長から指されたら発言することとか、そういう細かいことからの説明があるんです。で、中央図書館なり各地域館の沿革が説明されて、その後、このサービス評価についての説明も延々と続くわけなんですよ。だから、初めての協議会委員も、恐らくああいう会だと安心して臨めるんじゃないかなというのを、先日たまたま町田市の図書館協議会のホームページを見て、感じました。

だから、杉並区は私は結構すごいなと思っていますし、この館別自己総合評価というのは本当によくなってきています。私、今回、この評価をばさっと渡されて、ああ、見やすいなと思いました。今までの評価票を見てきて。やはり本当に改善されてきていて、年々年々よくなってきているというのは、もう、肌で感じます。

だから、サービス基本方針があるということが一つの指針になっていると思うんですけど、この、やっぱり私もここに出てくるからには、出てきて報告を聞くということではなく、まず身近な地域館にちょっと足を運んでみたり、ほかの区に行ったときに、ほかの

区の図書館はどうかとか、地方に遊びに行ったときにはその地方の図書館はどうなっているのかなというふうに、ある意味オタクっぽいかもしれませんが、そういう何か図書館ウォッチングというんですか、そういうこととして、ここには来ているんですが。

何ていうんでしょうね、やっぱり、ただ報告事項を受けて、ああ、そうですかといって自分の意見を述べるだけじゃなくって、しっかり、杉並区ならではの図書館が、どういうふうに成長していつているんだらうというのを、私はここの委員が6年目なんですけど、何か本当にそれはもう、年々感じています。特に、サービス基本方針ができてからは、本当に各地域館が、一つの指針ができたわけなので、そこに向かっていくというのは肌で感じています。厳しいこともいつも言っているんですけども、内心そういうことも感じています。

すみません。

○会長 どうもありがとうございました。

そのほか、ご意見ありますか。

( なし )

○会長 それでは、一応、図書館協議会による評価については、先ほど次長さんからの説明があったように、部会を設けて、それからその部会に全員参加する形で、昨年度と同じように全員参加するという形でよろしいでしょうか。

○委員 異議なし。

( 了承 )

○会長 よろしいですか。どうもありがとうございました。これで一応議題のほうは終わりましたんで、事務局のほうから何か連絡事項がありますでしょうか。

○中央図書館次長 はい。次回の日程ですが前回申し上げたとおり、10月の土曜日だと1日となりますが、皆様のご都合はいかがでしょうか。

○中央図書館次長 ご欠席の方もいらっしゃいますが、1日の土曜日の同じ時間でよろしいですか。

( 了承 )

○中央図書館次長 はい。では、次回、1日午後2時から、この場所でどうぞよろしく願いいたします。

この後、図書館サービス評価部会は慣例により非公開となりますので、傍聴者の方は退出についてご配慮いただければと存じます。その前に、先ほどお配りした資料で区民意向

調査の結果「別紙2」と右肩に記載されているものでございますけれども、こちらについては回収させていただきたいと思いますので、後ほどこちらの職員が回収に伺います。よろしく願いいたします。

私のほうからは以上です。

○会長 はい。ありがとうございました。

それでは、これで平成28年度第2回の図書館協議会を終了いたします。5分間休憩して、申しわけないんですけど部会のほうに入りたいと思いますので、よろしく願いいたします。